

どう ひょう 道 標

道標は「道しるべ」「道印石」とも呼ばれ、旅人や通行人の便宜のため、木や石などにそれぞれの道が進む方向・目的地・距離(里程)^{りてい}を記して道端に建てたものです。道標には、行き先のほかにも建立者や年号が刻まれ、その多くは今も分かれ道や路傍に立っており、また、道路整備で移動しても原位置が記録されていることから、江戸時代の交通の様相や古い道の姿を示してくれる貴重な歴史資料となっています。

江戸川区内にある江戸時代の道標31基が区の有形文化財に認定されています。現存する江戸時代の道標はすべて石造物であり、そのほとんどが道案内をすることによって神仏の功德^{くどく}を得ようとする信仰心から設けられたものです。したがって、すべて民衆の意思によって建立されたものです。

江戸川区の道標

区内31基の道標のうち、一番古いのは正徳^{しょうとく}3年(1713)に北小岩八丁目の岩槻街道の辻に建てられた「慈恩寺道^{じおんじみち}の石造道標」です。「西国坂東秩父百箇所」観音霊場供養の趣旨を刻んだ浮彫^{うきぼり}の地藏立像の側面に「是より右 岩付慈恩寺道 岩付迄七里」など、行き先が記されています。

岩槻の慈恩寺は、坂東三十三観音霊場札所であり巡礼も多かったようです。

そのほか、浅草の観音様や成田山へのお参りも



成田山不動明王石造道標

盛んであり、その参詣のための道標が建てられました。

近くの参詣地では、小岩不動(善養寺)、柴又帝釈天(葛飾区)、第六天堂(一之江妙覚寺)、雷不動(葛西真蔵院)、篠崎の浅間神社へ案内する道標があります。

また、青面金剛を祀る庚申塔は、邪気や悪霊が入ってこないよう道祖神としてムラの入口に建てられたものであり、道標を兼ねることも多かったようです。

区内の道標が指し示す地名は78ありますが、その中で最も多いのは「市川」と「河原」(河原村、現市川市)で、約3分の1の道標の目的地となっています。次いで「行徳」「江戸」「浅草」が多く、江戸川区域が古くから江戸と下総をむすぶ東西間交通の盛んな地域であったことがわかります。



庚申塔河原道石造道標
(東小松川中道)

主要な道標

・成田山不動明王石造道標(江戸川1-11):文政9年(1826)の建立で、正面に「成田山不動明王」、左側面に「是より左 江戸道」、台座正面に「右 行徳」「左 市川」と記された総高163cmの雄渾な道標です。下鎌田村の12名が成田講参詣者のために建立したと思われます。

・御番所町の慈恩寺道石造道標(北小岩3-23-7):正面に「右 せんじゅ岩附志おんじ道」、右側面には「左り いちかわミち」、左側面には「右 いち川みち」と刻まれています。安永4年(1775)の建立で、これから市川へ行く旅人には小岩市川の渡しと関所の方向を、市川から来た旅人には岩槻の慈恩寺と江戸の方向を示しています。

・東小松川中道の庚申塔河原道石造道標(中央3-2-16):上部正面には青面金剛像が陽刻され、台座の正面に「是より か八ら道」、右側面には「両国マテ二里」「市河マテ一里」とあります。文化5年(1808)の建立で、元佐倉道から河原の渡しに向かう分岐点にある道標です。

江戸川区郷土資料室